

2018年9月14日 第3259回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 北村 会長
<斉 唱> 「手に手つないで」
<ゲスト紹介> *航空自衛隊武山分屯基地 基地司令 川口 耕平 様
<退会挨拶> *観音崎京急ホテル 信木 啓輔 様
<帰国報告> *2017-18年度 財団奨学生 七松 優 様
<会長報告> *第1グループ会長・幹事会 報告
*ガバナー事務所より
・社会・国際奉仕セミナー開催のご案内について
11月10日(土) 第1部 13:00～ 社会・国際奉仕事例発表
第2部 14:00～ グループ討論・発表
於：アイクロス湘南6F

- <委員長報告> *インターアクト委員会 小林委員長より
インター・ローター委員会/アクターズミーティング 報告
<幹事報告> *VTT (Vocational Training Team) 補助金申請について
<出席報告> *出席委員会 加(淳)委員より9月14日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
122名	108名	73名	35名	3名	70.37%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 航空自衛隊武山分屯基地 基地司令 川口耕平様、本日はお忙しい中誠にありがとうございます。ございます。
- ・松本 剛、梁 井、吉 田、中村 剛、福 西、澤 田、波 島、齋藤 眞、若麻績、高橋 剛、鹿 島、高橋 剛、久保田、三 堀、平 田 各会員 航空自衛隊武山分屯基地 基地司令 川口耕平様、ようこそお越しくださいました。卓話楽しみにしています。
- ・久保田 会員 誕生月祝いとして
- ・小林 (-)、高橋 剛、三 堀 各会員 9月11日、メルキュールホテルにて青少年奉仕委員会のテーブルミーティングを開催しました。北村会長、江沢副会長にもご参加いただき大変盛り上がりました。猿丸会員、美味しいお食事ありがとうございました。
- ・鈴木 豊、山 ・、角 井、原 田、小 平、植 田、瀬 戸、渡 邊、中村 剛、大 竹、澤 田、福 西、白 井、波 島、山田 剛、勝 間、長 尾、小 山、齋藤 眞、若麻績、前 川、高橋 剛、新倉 剛、藤 村、山 下、勝 見、小林 (-)、前 田、岡 田、田 邊 各会員 信木啓輔会員、ご栄転おめでとうございます。淋しいけれど頑張って！横須賀から応援しています。
- ・信 木 会員 本日で横須賀ロータリークラブを退会させていただきます。皆様には大変お世話になりました。観音崎京急ホテルを今後ともよろしく願います。
- ・加藤 剛 会員 9月12日(水)に11月に開催します「RCアジ&イシモチ釣り」の事前釣行を五十嵐会員と行ってきました。アジたくさん釣れました。参加される皆様期待してください。五十嵐さん当日はありがとうございました。
- ・高橋 剛 会員 一昨日、上地横須賀市長より私の米寿の祝と激励のメッセージを頂き感謝しております。
- ・松本 剛、鈴木 豊、八 木 各会員 大坂なおみ選手、全米オープン優勝おめでとう。グランドスラム制覇まであと3つ。絶対いけるゾ。頑張れNIPPON!

<卓 話> 「自衛隊の活動概要と最近のトピックス」

航空自衛隊武山分屯基地

先ほど高橋様よりご紹介頂きました、航空自衛隊第1高射群第2高射隊長、兼ねて武山分屯基地司令の川口です。本日は、戦後間もない1951年に創立されたという、歴史と伝統ある横須賀ロータリークラブにお招き頂きまして、誠に有難うございます。若輩ではありますが、諸先輩に負けないよう、精一杯実施させて頂きまますので、どうか宜しくお願い致します。

最初に、第2高射隊を紹介したいと思います。第2高射隊は、横須賀の西側、陸上自衛隊の高等工科学校、海上自衛隊の横須賀教育隊等と同じ敷地に所在しています。我々の任務は、ペトリオットを中心とする装備品をもって、北朝鮮等からの弾道ミサイル防衛等を実施しています。

次に、航空自衛隊が平素から実施している「対領空侵犯措置」と、有事の「防空」について、広報用のDVDがありますので、少しご覧になって下さい。(DVD鑑賞後)

先ほど見て頂いたように、平素から24時間365日、地上の警戒管制レーダーや空中の早期警戒管制機等が警戒監視しており、領空侵犯のおそれのある航空機を発見した場合、速やかに戦闘機を緊急発進させ、その状況を確認し、行動を監視します。実際に領空侵犯が発生した場合には、退去の警告を発するか、あるいは、最寄りの飛行場に強制着陸させる等、必要な措置を取ります。続いて、有事の防空であります。宇宙・サイバー空間も活用しつつ、侵攻の兆候を努めて早期に探知・識別し、戦闘機等により可能な限り遠方で対処します。

続いて本日お話する3点目、航空自衛隊を取り巻く環境について説明致します。(29.3.31 現在の情報)
このグラフは、我が国の領空に接近する他国等の航空機に対して空自が実施した年度毎の緊急発進回数を表しています。平成28年度の緊急発進回数は、前年度と比べて295回の増加となり、過去最高の1168回でありました。続いて、東シナ海における活動状況ですが、中国機の活動はその頻度、範囲も年々拡大傾向にあり、これに対する緊急発進回数も増加傾向にあり、2016年は851回と8年前と比べると約2.7倍に増えています。また、南シナ海方面の状況ですが、7つの岩礁全てで軍事利用可能な施設の建設が確認されており、一部の島では戦闘機の展開に加え、長射程の地对空ミサイルの配備というような事も報じられています。さらに、中国空軍は、第4世代戦闘機を急速かつ継続的に整備し、空自保有の第4世代機数との数的な戦力差は約3倍に拡大しています。また、第5世代戦闘機の開発も進めており、J-20の実配備も近いとの見通しもあります。そのほか、ロシアから第4.5世代機であるSu-35の導入とともに、空母『遼寧』が太平洋側へ進出、国産空母の1番艦も進水していると言われております。このように全般として、旧式の装備を大量に保有していた中国軍は最新鋭の装備品を多数揃えた軍隊へと急速に変化し、装備の近代化、戦力投射能力の強化を継続していると思われまます。

さて、本日の最後4点目となる航空防衛力整備になります。本日は時間の関係上、中国の情勢をごく簡単にご紹介しましたが、我々が防衛を考える際には当然、北朝鮮やロシア等の国家情勢のみならず、地政学、経済、外交などあらゆる状況を加味して防衛力を整備します。この防衛力整備の基礎となるのが防衛計画の大綱であります。防衛計画の大綱は、国家安全保障戦略を踏まえ、今後の我が国の防衛の基本方針、防衛力の役割、具体的な自衛隊の体制に係る目標水準等を示すもので、我が国の今後の防衛を左右する非常に重要なものです。現在、平成25年度に作成された防衛大綱の見直しが実施されていると承知しており、激動の国際情勢にある中、皆様も是非、ご関心をもって報道等を確認頂ければと思います。

私も現在の防衛計画の大綱を作成する際に、一担当として関与させて頂きましたので、その際に決定された一部、「戦闘機部隊」と「弾道ミサイル防衛の体制」について紹介します。先ず、戦闘機の体制ですが、12個飛行隊・260機から13個飛行隊・280機へ、那覇基地に1個飛行隊を新設しました。次に、弾道ミサイル攻撃に対しては、防護範囲の拡大、同時対処能力の向上や継戦能力の向上を図るため、海自はイ



ージス艦の増勢とともに、空自は、自動警戒管制システムや警戒管制レーダーの整備及び能力向上の他、能力向上型迎撃ミサイルである、PAC-3MSEを導入することを決定しました。

最後に、トピック的な内容として宇宙・サイバー空間における米軍等の活動を紹介したいと思います。各国ともに近年、宇宙・サイバー空間における争いも激化しており、陸海空の領域を跨いだ、クロスドメイン（領域横断）での活動が重要となっています。米軍はトランプ大統領の指示のもと、2020年までに宇宙軍の創設を計画しております。また、サイバー空間においては平素から激しい攻防が繰り広げられており、例えば皆様も報道でご承知かと思いますが、「米大統領選挙へのロシアの介入」等は連日世界中で報じられています。このように従来の軍事力に加え、情報操作といった非軍事力を組み合わせた攻撃は、「ハイブリッド攻撃」と呼ばれ、欧州ではこうした脅威への備えが必要と強く認識されています。例えば、2014年のウクライナ危機を契機に、ロシアと直接国境を接しているフィンランドは、先ほどの脅威認識からいち早く、「欧州ハイブリッド脅威対策センター」という部署を主導・設立し、防衛の最前線を担っています。

非常に駆け足でざっと空自の活動や防衛力整備等を説明させて頂きましたが、基地のHP (<http://www.mod.go.jp/asdf/takeyama/>)でも活動状況等をアップしており、随時、基地見学も実施しておりますので、お気軽にお問合せ下さい。本日はご清聴頂きまして、誠に有難うございました。

(以下質疑応答)

Q：北朝鮮のミサイル発射があった際に、自宅周辺の電波状況等が少し悪くなったように感じましたが、何か関係があるのでしょうか？

A：どのような状況であったか必ずしも分かりませんが確たることは申し上げられませんが、ただ、航空自衛隊が使用しているレーダー等は、テレビや携帯電話等の電波と干渉しないように運用等しておりますので、関係は無いかと考えます。ご安心下さい。

Q：昨年、米軍のF-35戦闘機が日本に来た際、「レーダーに探知されなかった」旨の報道があったと思いますが、本当にレーダーに映らないのでしょうか。

A：非常に鋭いご質問を頂きました。

実際にどうであったかは承知しておりませんが、一般論・技術的には、先ほど少しお話ししたように、F-35は第5世代機のステルス戦闘機ですので、通常では探知することはなかなか難しいのではと考えます。

Q：ロシアでは超高速のミサイルが開発されているようですが、そのようなミサイルをレーダーで探知することは可能でしょうか。

A：こちらでも専門的なご質問を頂きました。一般論・技術的な観点からお答えしますと、レーダーで探知するためには、電波をミサイルに当て続ける（捕捉）必要があり、高速で軌道等するミサイルであれば、捕捉し続けることが困難となりますので、探知することは難しくなると考えます。

<閉会・点鐘> 13:30 北村 会長

週報担当 松本 明弘